

自己評価報告書

平成23年 5月 1日現在

機関番号： 32674

研究種目： 基盤研究（C）

研究期間： 2008～2012

課題番号： 20520479

研究課題名（和文）

論文作成のための日本語の共起表現の抽出—日中対照コーパスの分析を中心に—

研究課題名（英文）

Use of Corpus for Detecting Frequent Collocations in Academic Papers:
based on the Japanese, Chinese contrast corpus

研究代表者

三国 純子 (MIKUNI JYUNKO)

文化女子大学・服装学部・教授

研究者番号：00301705

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：漢語動詞・和語動詞・同形同義語・共起語・転移・コーパス

1. 研究計画の概要

本研究は、日本の高等教育機関で学ぶ留学生の論文執筆を語彙・表現の習得の観点から支援するための基礎研究である。論文執筆においては専門用語だけでなく「結論を出す」「規模を縮小する」等、動詞と名詞を組み合わせた表現が多用される。まず、論文で多用される動詞（和語動詞と漢語動詞）とその共起語を抽出し、動詞が取る項を言語学的に分析する。

また、漢語動詞については、日中同形同義語の漢語動詞に焦点を当て、中国語のコーパスデータや中日対訳コーパスの分析を行う。具体的には、日本語と中国語において同形同義語の漢語動詞が、それぞれどのような項を取り得るのかを抽出し、その差異を比較検討する。

以上の研究結果を踏まえ、最終的には同形同義語の漢語動詞、和語動詞の典型的な共起表現を体系的に示す。

2. 研究の進捗状況

現在までの進捗状況は以下の通りである。

(1)日本語コーパスから和語動詞と共起語を抽出する。

(2)(1)で抽出した和語動詞に対応する中国語訳を辞書で調べる。中国語訳と、日本語の漢語動詞が同形同義語のものを選定する。

例)「壊す」の中国語訳は「破壊」で、日本語にも中国語にも「破壊」という同形同義語が存在

(3)同形同義語の漢語動詞と、それらの漢語動詞に対応している和語動詞を含む短

文をコーパスで抽出した共起語をもとに作成する。

例)○「人間は自然環境を破壊した。」

○「人間は自然環境を壊した。」

○「山田さんは約束を破壊した。」

×「山田さんは約束を破った。」

(4)中国語を母語とする日本語学習者に日本語習熟度テスト及び、(3)で作成した短文の正誤判断を実施する。

(5)調査データを集計し、統計的なデータ分析を行う。

3. 現在までの達成度

②概ね順調に進展している。

日中対照コーパスだけではデータが不十分であったが、日本語、中国語それぞれ単独のコーパスから得られたデータをもとに、漢語動詞の共起語を抽出し、それを基に調査用紙を作成した。2010年度にその調査用紙を用いて北京外国語大学で調査を実施したところ良質なデータが得られたため。

4. 今後の研究の推進方策

今年度は、調査データの分析を行い、研究成果を発表する予定（「世界日本語教育研究大会」に投稿中）である。

今後の研究計画

(1)平成22年度に中国で行った調査の結果を基に、中国人日本語学習者の漢語動詞の知識と日本語習熟度との関連を明らかにする。

(2)両言語において、同形同義語の漢語動詞と共起する名詞を分析し、二言語間の

差異を考察する。

- (3) 同形同義語の漢語動詞に関しては、共起語が同じ場合（正の転移）と、共起語が異なる場合（負の転移）とで、習得する際にどのような違いがあるかを明らかにする。
- (4) 同形同義語の漢語動詞に対応する和語動詞に関しては、漢語動詞の共起語が同じ場合（正の転移）と、漢語動詞の共起語が異なる場合（負の転移）とで、和語動詞を習得する際にどのような違いがあるかを明らかにする。
- (5) 同形同義語の漢語動詞に関しては共起する名詞の分析を通じて、日本語・中国語の二言語間における統語的、意味論的構造の違いを明確にする。
- (6) 日本語学習者のための論文執筆の一助となる同形同義語の漢語動詞、和語動詞の共起表現を提示する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

- ① 小森和子・玉岡賀津雄（2010）「中国語と日本語の二言語併用者による同形類義語の認知処理過程」『レキシコンフォーラム』5, 1-36. 査読有.
- ② 三國純子・小森和子（2009）「論文コーパス分析により抽出された漢字語彙に基づく教材開発の試み」『ヨーロッパ日本語教育』13, 156-163. 査読有.
- ③ 谷内美智子・小森和子（2009）「第二言語の未知語の意味推測における文脈の効果－語彙的複合動詞を対象に－」『日本語教育』142, 113-122. 査読有.

〔学会発表〕（計3件）

- ① 小森和子（2010）言語科学会 2010 年度ワークショップ「漢字の心理学」, 名古屋大学, 2010 年 9 月 13 日
- ② 小森和子（2010）第二言語習得研究会 2010 年度全国大会パネル「最新の SLA 研究と教育実践の方向性」, 麗澤大学, 2010 年 12 月 18 日
- ③ 小森和子（2009）日本語教育学会 2009 年度秋季大会シンポジウム「新しい日本語能力試験が目指すもの－試験問題の検証と尺度得点表示 SEMによる構成概念妥当性検証の試み－」九州大学, 2009 年 10 月 10 日

〔図書〕（計2件）

- ① 小森和子（2010）『中国語を第一言語とする日本語学習者の同形語の認知処理』風間書房. 総ページ数 260 頁.

② 小森和子（2009）「二言語併用者の単語認知処理モデルの構築－第二言語としての日本語の同形語の処理過程を通して－」, 東京大学外国語教育学研究会(編)『外国語教育学研究のフロンティア－四技能から異文化理解まで－』 pp.25-37, 成美堂.

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕